

緊急号

しっかり浸種・しっかり催芽！

催芽に例年よりも時間がかかる事例が見られます（下表）。
◎催芽を順調にするため、浸種を適切に行いましょう。
◎催芽はハト胸が揃うまでしっかり行いましょう。

表 催芽時間とハト胸率 R6年3月下旬 庄内総合支庁農業技術普及課調べ

サンプル	浸種	催芽温度	ハト胸率(%)		
			催芽30時間	催芽38時間	催芽46時間
A	12℃×10日間	32℃	77~92	88~96	92~99
B	"	"	82~85	88~97	95~99
C	"	"	60~85	88~93	90~94
D	"	"	70~86	90~92	92~93

浸種時

- ①種籾に新鮮な水・酸素を供給するために、3日に1回程度は水を交換しましょう。水交換の際は種籾袋を揺すり、種子袋の内部まで新しい水を浸透させましょう。
- ②浸種完了の目安は、籾全体に透明感があり、胚が白く透けて見える状態です（図1）。



図1

催芽時

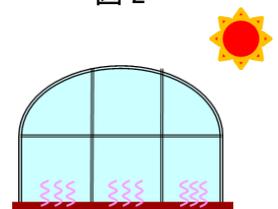
- ①通常は水温30~32℃で20時間程度ですが、今年はこれより時間がかかる可能性があるので、ハト胸が揃うまで（ハト胸率90%程度）確実に催芽しましょう（図2）。
- ②ただし、芽が長いと播種時に芽の損傷や播きムラが生じます。芽を伸ばしすぎないように、催芽中は芽の動きをこまめに確認しましょう。



図2

置床前

置床後の出芽を促すために、置床前にハウスやトンネルを閉めて地温を高めておきましょう。



春作業始動！本田・農道・作業小屋等での農作業事故を防ぎましょう！